

報告事項ウ

平成30年度第2回鳥取県立博物館協議会の概要について

平成30年度第2回鳥取県立博物館協議会の概要について、別紙のとおり報告  
します。

平成30年12月20日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

## 平成30年度第2回鳥取県立博物館協議会の概要について

平成30年12月20日  
博 物 館

標記協議会を開催しましたので、その概要等を下記のとおり報告します。

### 記

- 1 日 時 平成30年12月11日（火）午後1時30分から午後3時10分まで
- 2 場 所 鳥取県立博物館会議室
- 3 議 題
  - ・平成29年度決算、平成30年度博物館事業の実施状況及び平成31年度博物館事業の予算要求について
  - ・鳥取県立博物館改修基本構想（中間とりまとめ）について
  - ・鳥取県立美術館整備の検討状況について

### 4 主な意見

#### (1) 平成29年度決算、平成30年度博物館事業の実施状況及び平成31年度博物館事業の予算要求について

○土方稲嶺展で実施した小学校バス招待事業7校とその他の学校来館11校は少ない印象かどうか。

⇒・招待事業は、予め学芸員が支援して学校で事前学習を行い、来館時に対話型鑑賞教育を行えるよう工夫したもの。

・様々な機会でご報告しており、常設展への来館など多くの学校が利用しているが、企画展に時期を合わせての来館は調整が容易でないという学校の実情もある。

・今回は新美術館開設に向けてのスタートであり、今後も充実させ新美術館開設時に小学校3・4年生が全県下から来館できるような取組に拡充させたい。

○学校来館は東部が多いと思うが、中部・西部からの来館に向け積極的にPRしてほしい。

○土方稲嶺展は良い展覧会であったが、70歳以上の有料化で入館者が伸び悩んだのではとの分析もあるが、70歳以上有料化についてどう考えるか。

⇒・28年度からマスコミとの実行委員会方式での開催の取組を開始した。

・博物館単独開催では70歳以上は無料だが、民間企業であるマスコミとの実行委員会方式の場合は、収入確保の観点で協議の中で有料化したもの。

・有料化が来館にどの程度の抵抗となっているかは、今後も経験を積み重ねる中でどうが適当なのか判断していきたい。

○来館者の感想・意見で、どのような悪い点の指摘があったのか。今後のために、どのような改善点が考えられるのか。

⇒・マスコミとの実行委員会方式で情報発信に力を入れ入館者増に繋がたく、さらに力を入れる必要がある。

・今回、展示解説向けにスマホアプリを取り入れた。試行でもあり十分に使いこなせたとは言えないが、うまく使うと多言語対応も可能であり充実させていきたい。

・SNSでの発信のために写真撮影可能な展示箇所を設定したが、箇所の表示などが分かりにくいとの意見もあり改善していきたい。

○美術展のワークショップに一般参加した。大学生も運営に加わり参加した子どもたちが生き生きと楽しそうにしていた。子どもの頃から美術に関心を持てるようこうした企画を増やしてほしい。

⇒・美術展に併せ武蔵野美大の教授・学生の協力によるワークショップを企画した。

・こうした企画を充実させ、子どもたちが早くから美術に触れる場として、博物館・美術館が機能を果たしていけるよう努力していきたい。

## (2) 鳥取県立博物館改修基本構想（中間まとめ）について

- 「改修に当たり、外観に新たな博物館の出発を示せる象徴的な意匠をほどこす」と記載されているが、国史跡内にある博物館で可能なのか。
  - ⇒・外観部分の看板・デザインなどの工夫について、どこまでのことができるのか、文化庁との調整ということになるが出来るだけのことは考えていきたい。

## (3) 鳥取県立美術館整備の検討状況について

- 県立美術館と共に歩む中部地区の集い協議会を組織している中部地区の55団体とは、どのような団体か。美術団体は入っているのか。
  - ⇒・美術関係の団体は個別ではなく文化団体連合会として参加。その他は自治体、経済団体、地域や観光等の様々な団体である。
- 中部地区の方は、この協議会へ参加できるが、東部や西部の方で興味がある方に対して、何か関われる機会を設けるような考えはあるのか。
  - ⇒・中部地区の集い協議会は、中部地区の皆さんが自主的に、何ができるかを考えられて設けられたもの。
    - ・例えば、東部・西部の美術家協会からも新美術館に協力していきたいという決議をいただいております、ともに協力し県内の文化芸術活動が盛り上がるようにしたい。

## 5 その他

- ・協議会終了後、PPP／PFI制度及び近年のPFI手法による既存施設改修事例などをテーマに委員勉強会を開催した。

## 6 今後の対応

- ・次回以降の協議会では、30年度の事業実施状況や31年度以降の事業計画等について議論をしていただき、併せて、今後の博物館改修に向け参考となる他館の改修事例などに関する勉強会を設けていく。

## 《参考》委員名簿

氏名	役職等
石谷 孝二	鳥取大学名誉教授
李 素妍	鳥取大学地域学部准教授
木ノ下 智恵子	大阪大学 21世紀懐徳堂准教授、アートプロデューサー
郡山 鈴夏	山陰海岸ジオパーク推進協議会ジオパーク専門員
坂本 敬司	前鳥取県史編さん室長
<議長> 谷口 博繁	元鳥取県立博物館長
田村 閑美	鳥取女性中央会理事
鶴崎 展巨	鳥取大学農学部教授
中尾 廣太郎	鳥取東部美術家協会会長
野地 恒有	愛知教育大学教授
前田 明範	元倉吉博物館長
矢田貝 繁明	大山自然歴史館長
山口 朝子	鳥取県家庭教育アドバイザー
米田 恵子	鳥取市立富桑小学校校長